

進路指導室へようこそ 3

前橋女子高校進路指導部

令和7年度 MJ 進路通信 第9号

令和7年5月16日（金）発行

■学年最初の定期考査、どう準備する？～放課後の時間をどう使うか～

高校総体も終わり、来週からは中間考査が始まります。1年生にとっては初めての定期試験。結果もそうですが、中間考査に向けての計画的な学習ができるかどうかは、将来的には入試に向けての長期的な計画作成力につながります。そして、部活動がいったん区切りがつくこの時期、「放課後の時間をどう過ごすか」ということが効率よい学習のためには大切になってきます。是非皆さんには、「放課後の勉強に最も居心地の良い場所を見つける」努力

(7) 自主学習場所

(人) (%) (人) (%) (人) (%)

	2年		3年		卒業生3年次	
前女	84	30.3	76	28.5	76	28.1
学校外の図書館等	61	22.0	71	26.6	59	21.9
塾・予備校の学習室	97	35.0	90	33.7	92	34.1
その他	25	9.0	23	8.6	26	9.6
なし	10	3.6	7	2.6	16	5.9
合計	277	100	267	100	269	99.6

をしてほしい。前女には学習室をは

じめ棟間通路や廊下など、いろいろなところに勉強用の机が用意されており、それぞれお気に入りの場所で勉強する生徒がとても多いです。常に「同じ場所で勉強する」というのが実はとても大事で、それは「そこに座ると何となく勉強しなくてはならないような気になる」からなのです。自宅で勉強するときも同じ。「やらなくちゃ」というストレスを感じながら勉強を始めるのではなく、そこに座って何となく自然に勉強が始まった、という習慣が身につけば安心ですよ。放課後から下校時刻までの90分間、落ち着いて勉強できる場所を、校内で探してみませんか？



■インターンシップに、行ってみませんか？

MJ キャリアプラスのプロジェクトで、校外の環境を活用してキャリアを増やすものとして、インターンシップやボランティアがあります。インターンシップは様々な業種で働く方と一緒に職場での勤務体験をすることにより、その仕事の内容ややりがいなど、さまざまな経験をすることができます。代表的なものは医師体験・看護体験などですが、そのほかにも県庁でのインターンシップや図書館でのボランティア体験など、学校にも案内が届くものもあります。主に長期休業中や週末を利用して行いますので、職業選択にあたっての情報収集の場として積極的に参加してみることを勧めます。現時点ですでに複数の病院から看護体験の募集案内が届いています。随時紹介していますので担当の先生や担任の先生に相談してみましょう。個人で探してインターンシップに参加した前女生もたくさんいます。自分で探して申し込んで参加したインターンシップについては、事後に担任の先生に報告してください（県への報告の必要があります）。



なお、夏休みに実施しているインターンシップのなかには夏期補習と時期が重複する場合があります。特に全員対象の補習については、こちらも非常に大切な時間ですので極力補習優先で計画を考えてほしいと思いますが、日程的にどうしてもそこでないと難しい場合は担任の先生に相談してみてください。参考までに本校の生徒が参加している主なインターンシップを紹介します。



- ・高校生医師体験（複数の病院で実施）
- ・ブラックジャックセミナー（模擬手術体験）
- ・高校生看護体験、ふれあい看護体験（複数の病院で実施）
- ・群馬県庁 G ワークチャレンジ（県庁の各部署において勤務体験）
- ・県（市）立図書館ボランティア（蔵書整理等の手伝い）
- ・「ようこそ先輩」（母校の小学校に出向いて教職活動の補助）※3年生で進路内定者対象

■「大学入試の基礎用語」（第2回：入試の選抜方式は、いろいろある）

大学入試には、さまざまな入試方式があり、大きく分けると「一般選抜」と「推薦型選抜」があります。「一般選抜」は、主に高校で学習した科目に関する学力試験で行われ、ほとんどすべての大学で実施しています。国公立大学の一般入試では、1月に実施される「大学入学共通テスト」と、2～3月に実施される個別試験の結果を踏まえて合否が決まります。受験科目や配点などは大学ごとに異なり、いわゆる「難関大」と呼ばれる大学ほど個別試験の配点が高く、必要な受験科目数も多い傾向にあります。学部によっては、小論文や面接が課されることもあります。私立大学の一般選抜は、大学独自の問題で入試を行うものと、共通テストの結果で合否が判断される（いわゆる「共通テスト利用入試」）があります。受験方式ごとに定員があり、同じ学部でも方式により難易度が変わることもあります（今の私立大学の入試方式は多岐にわたり、違いや特徴をしっかりと把握しておく必要があります）。

「学校推薦型選抜」は一般選抜と並ぶ大学入試の柱の一つです。一般選抜との違いは、出身高等学校長の推薦を受けないと出願できない、という点です。出願にあたっては、「調査書の学習成績の状況○以上」「○浪まで」といった出願条件が設定されている場合もあり、条件をクリアしないと出願できません。「学校推薦型選抜」には、様々なタイプの選抜がありますが、大きく分けて「公募制」と「指定校制」の2タイプに分かれます。

「公募制」は、大学の出願条件をクリアし、出身高等学校長の推薦があれば受験できる選抜です。一方の「指定校制」は大学が指定した高校の生徒を対象とする選抜です。指定校入試は、学校の推薦を受ければ必ず合格できるイメージがありますが、合格を保証していない大学もあり、また、入学後の大学生活の取り組みにも（母校のお墨付きをもらって行くわけですから）それなりの責任が生じます。大学での学習状況なども定期的に母校に報告があります。

「総合型選抜（かつての AO 入試に相当）」とは、エントリーシートなどの提出書類のほか、面接や論文、プレゼンテーションなどを課し、受験生の能力・適性や学習に対する意欲などを時間をかけて総合的に評価する入試方式です。他の入試方式と比べ、「高い学習意欲」「学びへの明確な目的意識」が選抜基準として重んじられているため、選抜方法もその点が判断できるような内容となっています。出願時に受験生自身が作成して提出する書類が多いことも特徴です。早いところだと1学期のうちからエントリーが始まることもあります。

いずれの試験も原則的には「その学校を第一志望とし、合格したら入学する意思のある生徒」が対象となりますが、それぞれ長所短所、向き不向きがあり、自分にあった選抜方式を考えておくことが重要です。「早く楽になりたいから」「とりあえず受かりそうなところに」出願するような受験になると、仮に合格しても入学後に大きなミスマッチを生じることもあります。

